

起立歩(キリット)

kiritto

vol.18

平成28年7月1日発行

発行：香川医療生活協同組合
高松協同病院

発行者：院長 北原孝夫

編集：高松協同病院 広報委員会

H P: <http://t-kyodo.com/>

病棟運動会開催

高松協同病院の病棟では2ヶ月に一度レクリエーションが開催されます。

梅雨の雨がばらつく中、6月28日東西病棟にて運動会が開催されました。まるで夏の熱さを先取りするかのような熱い催しとなりました。

競技種目は、玉入れ、綱引き、風船送り、借り物競争、パン食い競争、お玉渡し、リレーなど盛りだくさん。病棟ごと数チームに分かれての激戦です。

皆さん最初は周囲を窺いながらの参加でしたが、いつからか、気がつけば夢中になって一つ一つの競技に取り組み、普段はみられない表情をみせ互いに応援しあい、感動し、喜びを分かちあうことができたように思います。中には「なんで今更…」と言っていた患者様が、競技中の目は意外や真剣、普段のリハビリ以上に熱が入っていたかも。

運動会を通していつもの入院生活とは違う雰囲気のおかげで、大いに声を出し、汗を流してリフレッシュできたのではないのでしょうか。



よいしょ、よいしょと
大きな声が出ています



勝負となると
みなさん本気です



みなさま、こんな事が
できるんだと自信に
なった様です



楽しく活気あふれた
一時でした

ゴーヤカーテン



高松協同病院では7年前から地球温暖化対策として「緑のカーテン」に取り組み、病院南側にゴーヤやアサガオなどを育てていて、6年連続で高松市からコンテストで表彰していただいています。また例年取れたゴーヤを使って患者様の調理訓練に使っています。

今年も組合員ボランティアさんの協力のもと「土起こし」を行い、5月14日、ゴーヤ植え付け作業を組合員ボランティアさん、患者様、職員総勢30名ほどで行いました。植えた品種は「あばしゴーヤ」という苦味が少ない品種で、沖縄のゴーヤとしては一般的な品種なんだそうです。「あばしゴーヤ」の名前の由来は、そのゴーヤはイボイボがあって丸い外観をしており、ハリセンボンに似ており、沖縄ではハリセンボンを「アバサー」と呼ぶことから「あばしゴーヤ」と名付けられたのだそうです。

水やりの職員は毎日「大きくなってね～」と声を掛けながら水やりをしています。また立派に育ったゴーヤで患者様が調理訓練でおいしいチャンプルー等が作れたらいいなと楽しみにしています。



園芸活動 ～ガーデニング～

高松協同病院では今年からリハビリテーションの一貫として園芸活動を行っています。以前まで雑草ばかりだった場所を経験のある患者様からアドバイスを頂きながら、土作から始め種まきから収穫まですべてをリハビリの中で一緒に行っています。写真は実際に収穫して調理した際のもので、患者様とジャガイモが思ったよりも大きく育っていたことに驚き喜びを共有しました。また収穫後は調理練習としてジャガイモを使ってパスタを作りました。他にも小松菜や葉大根、にんにくなどを栽培していました。

園芸療法は草花や野菜に触れることで心身の安定が図れると考えられています。

以前までは屋外で活発的に農業などを行っていた方も長期の入院で生活リズムが崩れ屋外での活動が少なくなってしまう。園芸活動は外へ出るきっかけ作りだけでなく、適度な運動を行うことで体力向上に繋がり、園芸を通しての仲間作りや将来が期待できる作業を行うことで喜びを感じることができます。

現在は今まで中心になって作業して頂いていた患者様も退院し農作業をして頂ける患者様を募集中です。患者様の生活歴や趣味活動を考えその内容に沿ったリハビリテーションが提供できるよう励んでいきます。今後も園芸活動を通して患者様と季節感を感じながら楽しくリハビリができるよう取り組んでいきたいと思ひます。



田中先生のご挨拶

6月1日に診療所に赴任して早1ヶ月が過ぎようとしています。高松協同病院在任中は市内の大病院からリハビリの必要な患者さんをできるだけスムーズに受け入れ患者さんの在宅生活を支える診療活動を職員一丸となって行って参りました。「リハビリなら高松協同病院」という名誉ある評価を頂くことができるようになったのも市内の医療介護関係者、医療生協組合員さん、患者さんのご理解ご協力のおかげと感謝いたします。

診療所では併設の訪問看護ステーション、通所リハビリ、訪問介護のスタッフと一緒に在宅医療の強化に努めています。大学病院や市内の大病院から在宅で療養を希望されるターミナルの患者さんの紹介があったり、介護施設から訪問診療の依頼を受けたりして診療所の在宅医療に対する期待の高さを毎日感じております。外来通院中の高齢の患者さんからは「施設に入るのは嫌だったけど往診に来てもらえることを聞いて本当に安心です。」という声を頂きました。

最後まで在宅で過ごしたいという患者さんの希望をかなえ、ターミナル状態で在宅療養する患者さんやご家族を多職種で連携をとりながら支えていく在宅医療や介護の実践に大いにこれから取り組んでいく所存です。

在宅療養に関するご相談がありましたら高松協同病院の藤原相談員または生協みき診療所 (087 891 0303) まで一報戴ければ幸いです。「訪問診療なら生協みき診療所」という評価を頂けるよう職員一同頑張ります。

生協みき診療所
田中 眞治



病棟症例

高松協同病院回復期リハビリ病棟の入院患者様で退院後に1人暮らしが困難なため施設入所となったN様への対応についてご紹介いたします。

N様は脳出血後の高次脳機能障害などがあり、復職も困難で今後の経済面に不安もありました。また、以前に県外在住中に様々な事情で家族・親族などと疎遠になっており支援が受けられない状況でもありました。そういった事情のため施設入所に向けて荷物整理や処分、アパート立ち退きを担当スタッフを中心にお手伝いさせていただきました。自宅アパートから施設へ引っ越すためにかかる最低限の出費以外は極力控えるためアパート2階から階段で大きな生活用品を下ろすなど慣れない作業にスタッフも苦勞することもりましたが無事に想定内の出費で施設入所ができました。

近年では家族・親族からの支援困難や経済面など様々な事情で退院に不安を持たれる患者様もいますし、その対応も多様化してきています。その中で、今回こういったお手伝いができたのも医療生協ならではの対応だと思います。



アパート整理中



アパート整理後



引っ越し先

医事課

この数か月であわただしく色々なことが起こっています。4月には2年に1度の診療報酬の改定がありました。今回の改定では在宅医療に重きを置かれており往診患者様全員の算定点数の見直しをしました。ほとんどの患者様の負担が増えることとなりましたが、これからの訪問診療の重要性、ご家族様の送迎などの負担軽減を考えると妥当な改定なのかなとも思いました。そして6月1日から当院外来は電子カルテ・医事システムの入れ替えがあり、医師・看護・事務、外来のすべての職員が右往左往しながら業務をこなしています。

患者様をお待たせすることになりご迷惑をおかけしていることもしばしば…。早くシステムに慣れ患者様にご不便をかけないように精進したいと思っております。



薬局

薬局では、使用される全ての薬剤について責任を持ち、適切な薬物療法を通じ患者様に安心・安全な医療を提供する事を目指しています。

病棟では、服薬介助が必要な患者様には配薬カートへのセットを行っています。患者様自身で服薬できる方には個別に配薬を行うことにより服薬指導を行い、退院後も服薬が確実にできるように指導しています。また、患者様の要求、副作用等も確認し、得た情報は病棟スタッフへ伝達し対応を行い、情報の共有を行っています。処方監査の際には、カルテや病棟スタッフから患者様の状態を聞き取るなどをし、必要な場合は医師への処方提案も行っています。

外来では、開設以来、患者様の利便性、経済性を考慮し、少しでも患者様に負担をかけないようにと院内処方に行っています。一ヶ所で診察とお薬の受け取りが済むので、手間や時間の節約になり、特に移動が困難な患者様にとっては負担が少なくなります。自己負担も、院外処方に比べ少なくなります。処方内容の疑義、あるいは調剤の際に気になる場合は医師、看護師やカルテから直接確認することができるため、適切で安全な薬物治療ができ、お薬の説明も的確に行えています。お薬をお渡しする際には、患者様と対話する事により、処方内容、飲み忘れ、副作用のチェックなどを行い、カルテに記載し、他職種との情報共有を行っています。また、事前に予約患者様のお薬を準備して置くなど、待ち時間を少なくする工夫も行い、できるだけ患者様との服薬指導（対話）の時間を取るようにしています。

訪問診療では薬剤師が処方監査を行い院外処方の発行を行っています。応需薬局からの疑義照会は薬局が窓口となり、応需薬局との連携を強めています。

今後も、患者様にとってかかりやすい病院、安全で納得のいく薬物治療が行えるように薬剤師としてレベルアップを目指して行きたいと思っております。



外来看護

在宅診療の統合を目指す香川医療生協の方針のもと、高松協同病院と生協みき診療所の訪問診療の再編を進めています。

高松協同病院では、今年6月から医師体制の変更と共に、一般外来診療と訪問診療の一部の患者様が系列院所である生協みき診療所に異動されることになりました。また同時に電子カルテの更新もあり、ご迷惑をかけながら慣れない体制の中奮闘しております。

地域包括ケアが進んでいく中、私たちだけでは患者様を支えきれません。院内外の方たちと連携をとり、切れ目のない医療・介護・福祉のネットワークをこれからも構築していきたいと思っております。

7月～10月は特定健診も行っております。この機会に自分たちの健康について見つめてみませんか？

